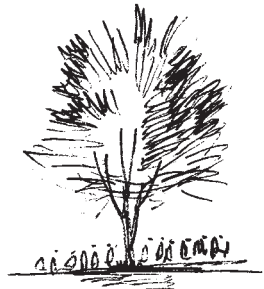


光の子



No.187 2018.11.3

●年間聖句 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
(ヨハネによる福音書12章24節より)



「秋 容」

表紙絵・中島由起子

「枯野の灯」

秋風のしばらくありし身八口

鷺ひとつ佇たせて暮るる刈田かな

狐火に取り巻かれたる仕舞風呂

四五人の声が田をゆく厄日かな

ひとすぢの道を真中に枯れいそぐ

五郎助ほうほう山風を騒がしむ

一つ灯のやがてずらりと枯野の灯

黛 執

(「春野」主宰)

光の子どもの家は、ここを出た後もいつでも帰って来られる関係、実家のような役割を果たすことをめざしてきました。しかし、この頃、顔を見られない卒園生が数名います。連絡を取ろうにも取れないことを心配するばかりです。彼、彼女はどんなに苦労しているだろう。想像することはできませんが、私たちに何ができるでしょうか。その困難が乗り越えられるものであることを願わずにはいられません。

抱えている重さ

施設長 竹花 信恵

ただでさえ生きにくい社会です。おまけに「児童養

護施設へ入所してくる子どもたちが抱えている問題が難しくなった」「発達障害が増えている」という現状があちこちで聞かれます。

先日の全国調査では児童養護

施設在籍児童の3割に近い子どもたちに何らかの「発達障害」があるという結果が報告されました。目に見える障害、診断名が明確につく障害だけではなく「その他の障害」もカウントされていきます。

開設当初から、入所前の「精神発達遅滞」の見立てが大きくはずれ、めざましく成長する子どもの様子をみてきました。診断名に寄りかからず、目の前の子どもを大切に関わろうとしてきました。

それがいつしか、追いつかなくなっていくきました。思春期を迎えた子どもの——関わり次第といえはその通りという面はありながらも——、暴力が止まらず、その子が入院している間だけホツとするほどの「行為障害」が表れました。この頃が、この家の第2段階だったかもしれない。職員体制を強化し心療士も配置され、医療、カウンセリングと生活を連動させることが不可欠となっていくきました。

誰かを頼れば劇的に改善するということもないでしょう。けれど児童精神科医に見てもらっている子どもは現実に増える一方です。

日常的に障害という言葉を使っているわけではありません。レットテルを張りたいわけではないのです。みんな大切な子どもであり、かわいさが減じられるわけではありません。

たよりにできる家族がいるわけではない子どもたちばかりです。すこしでも生きにくい時、助けにつながるなら、それを手にいれる策を考えるのも私たちの責務なのでしょう。

何等かの特別な支援、体制が必要な状態もあります。こんな時、本当の親たちがそうであるように、自分がいなくなっても何とかやっていける方策を見つきたいと思います。

具体的には就労支援、仲間づくり、グループホーム等社会資源の利用……。『障害者手帳』や『療育手帳』を取得することが助けになることもあるでしょう。申請にあたって、障害を容許することが求められる子どももいます。

光の子どもの家で言い続けてきた「暮らしが変わらない子どもは変わらない」ということは確かだと思えます。ああでもない、こうでもないと言っているあいだに時間だけが流れていく日常です。それでもその時

間が今ここにあるということ、ともに悩むみんながいるということの中で私たちの働きは変わりはありません。

もしそれぞれの居場所がこの家で見つからないとしたら、次への橋渡しもしなければならぬ。必要ならば保証人にもなりません。そして関係を切られない限り、こちらから切ることができない。何か役に立つことがあるなら何でもやらなければと思っています。

ひとりひとりみんな違ってみんないい。個性としてお互いを大切にできれば、尊重しあえればいい。何があってもけつして、うつむいてここを出る、下を向いてここを出なければならぬことにならないようにということだけは、祈っています。見守っててください。

実りの季節を十分に味わい、ここからだが守られ、次の寒い季節に備えられますように。ひとりひとりが豊かに過ごせますように。今後ともお祈りください。どうぞよろしくお願ひいたします。



北海道激震災害に想う

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

北海道厚真町の緑一面の山が、一瞬にして土色と緑のまだら模様が変わってしまったのをテレビの画面で見たとき、自然の恐ろしさに慄いた。さらに、地震前の緑の山と、地震後の山の像が同じテレビ画面に並置して示されたとき、恐怖は苦渋に満ちた自分の振り返りへと変化していった。

間が生かされているという自然に対する畏怖・畏敬の念への転換の必要性が自然災害のたびに語られながら、自戒の念も含めて言うのだが、時を経ると、そのことは忘れ去られてしまうの

が常であった。

自然に対して畏怖・畏敬の念を抱きながら人間が生きているということはどのような生き方を指すのか、その解はなかなか難しい。少なくとも、生きとし生けるものに対する感謝と慈しみの心が、その礎として無ければならないだろう。動物としての人間は、酸素を植物に頼り、体の構成成分の多くを他の生物の生命に依存して生きているのだから。

食した動物を供養するための動物供養塔は、広く世界的に建立されている。しかし、私たちが食するために犠牲にしている命は、動物だけではない。植物の生をもむしり取る。以前にもこの項で何回か触れてきたが、草や木の命をもいとおしんで、主に山形県で建立されてきた「草木塔」は、自然に対する畏敬の心を表現した人間の一つの生き方だと思う。

山形大学の学長をしているときに、大学の理念として「自然と人間の共生」を掲げた。人間の欲望を満足させるために、自然を破壊してはならないことを、論じたものである。行動規範としてはもつともなことだと、今も思っている。しかし、

「自然と人間の共生」という表現によって、自然と人間を等置することは、自然観としては、間違っている、まだらの山を見せられた今思う。

数学と物理に弱い文系人間なのだが、最近なぜか、宇宙論のエッセイを好んで読む。と言っても、数式が出てきてよく理解できないところも多いのだが、宇宙の壮大さが、夢物語ではなく、宇宙物理学の目で、科学的に提示されている様は、驚嘆に値すると思う。このような事実に触れると、自然を知る自然としての人間の位置は、私たちの知る限りの宇宙の中では特別な存在ということになる。「科学は自然を克服する」ことは出来ないが、科学は少しずつ、自然を、そしてその大元の宇宙を知りつつあることは間違いない。そして、最近得られつつある宇宙科学の結果から推し量ると、宇宙の中に自然があり、自然のなかに人間が生きているのである。自然と人間は等置できない。

このように、壮大な、美しい宇宙の中の一つの存在である人間たちは、戦争という名のもとに、合法的にお互いを殺し合う。殺し合いは自然の摂理だと

いうかもしれない。しかし、同じ種同士の殺戮は、言われているほど多くはないことが知られている。少なくとも地球上では人間にしか与えられていない意識を介して、宇宙と自然を知る存在である人間は、その意識ゆえに、人を憎み、貶め、殺そうとする。他人事のように言っているが、そんなことは許されない。自分の心にもそんな思いが、くすぶっているはずなのだ。

恩師の札幌がんセミナー理事長の小林博先生が、今私が働いているみゆき会でお招きした講演会で、恐竜が巨大隕石で絶滅したことが、明らかになってきたことを話し、地球がその隕石に衝突するという偶然がなかったら、恐竜は存在し続け、人間の誕生はなかったに違いないと推理していた。彼が言いたかったことは、宇宙は壮大であり、その中の人間は如何に小さな存在であるかということであつたと思う。

小さな、しかし宇宙を知る存在である人間としていかに生を全うしたらいいのか、自分自身の問題として捉えながら、死に向かつて歩いていきたい。

現場から

スマートフォン、インターネット
使用の現状について
佐藤 義岳

イベント時の託児サービスを手がける株式会社マザーズ様より、タブレット端末を24台寄贈していただきました。ありがとうございました。

タブレット端末の利用状況と併せて、子どものスマートフォンやインターネット利用にどう向き合っているか、光の子どもの家の現状をお伝えします。

● スマートフォン

2012年までは、在籍中は携帯電話を持たせず、高校卒業時にお祝いとして持たせていました。

現在は、高校生以上の子どもがスマートフォンを持てるようになっていきます。社会的にスマートフォンの利用率が高くなり、高校生にとっても部活動の連絡、友達つきあい、学習での活用、アルバイトや就職先の検索等、なくてはならないものになっているからです。

スマートフォンを持たせる際は、子どもの意思と生活状況を踏まえ、職員間で協議します。スマートフォンの利用について個別講

習を行い、誓約書を交わします。

個別講習と誓約書の内容は、子どもの保護者がその子の安全を守ってスマートフォンを渡すならばそうするであろうという、一般的な内容です。

ただ、「SNSで顔・名前・所属・位置情報を出さない」、「アプリをインストールする際は大人に確認する」などの約束は、同級生と比べて少し厳しいものかもしれません。

スマートフォンを持った子どもには、小遣いと別に補助金を支給しています。格安スマホの最安プランで通話を最小限にすればお釣りが出ます。足りない場合は、小遣いやバイト代から支払います。

また、施設内の無線ネットワークを使用することができます。本園ではファイアウォールを設定し、危険や不健全なサイトに接続できないようにしています。

スマートフォンの中身は子どもがプライバシーに関わるものであり、子どもから見せてこない限り

職員は見ません。ただし、生活・学習等に重大な問題が生じている場合は職員に見せることを、予め約束しています。

● パソコン

県から予算を受け、昨年度から各家に子どもが使えるノートパソコンを導入。操作に慣れたり、調べ物に活用することをねらいとしています。YouTubeを見るときも多いです。

● タブレット端末

寄贈されたタブレット端末は、学習用のものとして小中学生とスマートフォンを持っていない高校生以上の子どもに1台ずつ持たせています。

SIMカードが入らない端末で、インターネットブラウザやYouTubeのアプリ、カメラ機能等は使用できないように制限しています。

施設内の無線ネットワークと知育・教育系のアプリを設定し、家庭学習の道具として活用しています。

導入初日に子どもが食いついたのは「おかね星人」(LITAL ICO)でした。

● ゲーム機

携帯ゲーム機を持っている子どもも多く、入所前から持っていた

子、入所後に実親や親族にプレゼントされた子もいます。

子どもが希望すれば施設内の無線ネットワークを使えるようにしていますが、外部との通信や、施設内でもメッセージのやりとりはできません。

● 課題と今後について

子どもがスマートフォン等の機器を使うようになると、周囲から見えづらいコミュニケーションが増えたり、外部との接点が増えることによるトラブルが生じることは避けられません。

光の子どもの家でも、性に関する危険、施設内外での人間関係トラブル、生活の乱れなどの問題と向き合ってきました。

しかし、どの問題についても、子どもにスマートフォンやインターネットさえ使わせなければ起きなかったということではないと考えています。日々の暮らしの中で子どもとのかかわりを誤ったり、欠けていたから問題が起きたと考えるのです。

私たちが側にいられるうちは深刻な危険から守り抜き、安心して小さな失敗を経験しながら成長できるように、日々のかかわりと環境整備を考え続けていきます。

先日、知人からジャガイモをいただいた。余り大きくなく、コロッと小ぶりで、10個程袋に入っていた。

私は、この大ききのジャガイモが好きである。

なぜこの大ききのジャガイモが好きなのか、それには少しワケがある。

ジャガイモ

彫刻家 中島 睦雄

今から70年も以前、昭和22年の9月15日の夜、カスリン台風と名付けられた大型の台風によつて、大量の雨が降った。その為、利根川の堤防が決潰したのであった。この雨は、利根川の上流地域にも大量の水をもたらし、山々の木々なども押し流したという。

したがって、それらの木材などが、利根川の橋脚に引っかけり、流れを塞ぎ止めるような形となり、堤防を突き破る結果に

つながったと言われていた。

この流水が、9月15日の夜、私の住むあたりを、水びたしにしてしまったのであった。

私たちは、家族と一緒に、水塚の上にある蔵に逃げ込んでいたので、命は助かったのであった。ここには、近所の老婆、子ども、それに牛も避難してきていた。

こうこうという恐ろしい音と共に、濁流が流れてきていた。後で調べてみると、利根川からかなり離れている私共の所でさえ、地上2メートルくらい深いまで水が来ていたのであった。

裏の田畑の広がる部分には、屋根の上に鶏を何羽も乗せて、茅葺きの家が流れていった。また、死んだ人が流されて行くのも見えた。

当時はラジオはあったが、テレビは無しで、全体的な状況はわからない不安の中で、時が過ぎていった。

水塚に避難した私たちは、全員無事であった。

さて、一夜明けて、9月16日の朝になってみると、みんなの食べる物が無い。

洪水に備えての準備などはゼロだったのである。

だいたい、以前から言われていた事は、利根川の右岸の堤防は切れることはない、というのであった。こちらが切れると、首都に流れ込んで、大変なことになるのだというのであった。

そんな訳で、洪水に備えての準備などは、考えられていなかったものであった。

しかし、何か食べなくてはならない。

たまたま、蔵の北側に味噌蔵というのがある。そこにいくらかのジャガイモがあったのである。準備したのではなく、何となく、そこへ置いたのだろうと思う。

そこで、母や姉たちが、手ぬぐいを何枚も重ねて泥水を濾過して、何とか工夫をしながらジャガイモを茹でて、一人に3個か4個くらいずつ分けた。

これが朝食であった。おいしかったか、まずかったかは覚えていない。ただ、チョコピリだけでも、食べられたということは、ありがたかった。

その後は、水害にあわなかつた人達が、船で食べ物を持ってきてくれた。

こんな事があってから、しばらく時が経って、私の子ども達

も学校へ行くようになった頃、私は、水害の記憶を風化させない為に、9月15日の夜の食事は、ジャガイモだけ、という事に決めて、以後毎年実行している。

元々は、16日の朝食だったのだが、学校や仕事に行く16日は避けた訳である。

初めは、ジャガイモの時に、あの大洪水の話を、子どもたちや家内にもして聞かせたものであった。

水害から10年程後の或る日、9月15日の夕方、兄達がやって来た事があった。一応お客であったのだが、我が家の恒例の行事なので、説明をした上で、夕食はジャガイモだけで食べても良かった。

兄もあの洪水は、一緒に体験しているの、文句を言わずに食べてくれた。

我が家にとつては、心のこもったもてなしだったと思っ

たのである。これが、我が家に於ける年中行事の一つなのである。したがって、友人からもらった、コロツとしたジャガイモが、ただのジャガイモではなく、私にとつては意味のあるジャガイモだったのである。



秋田旅行の思い出 仙道家

朝6時。しかし今日の子どもたちはいつもの寝ぼけ眼ではありません！ 毎年恒例の夏行事、車に乗り込み秋田県へ向けて出発です！

車の中では皆それぞれ、お菓子を食べたりゲームをしたり音楽を聴いたり寝てしまったり……。渋滞なしでも6時間の長旅ですが大きなトラブルもなく無事到着。初めて参加の大原兄弟も楽しそうにそこかしこでダンシング！

長距離ドライブということを考えて、電車大好き4歳の亜紀は奥寺と共に別ルート。秋田新幹線で午後には無事到着。そして今回は青森で生活している卒園生の丘実が夕方に合流！ 小学生以来10年ぶりの秋田旅行参加です。

関東では台風の影響で悪天候でしたが秋田まで来るとその影響もなく、2日目には雲一つない夏空の下、朝から夕方まで海水浴を満喫することが出来ました。秋田の夏は短く、今年は8月12日に海水浴場の営業を終えるということ湘南との違いにビックリ！

3日目は溪谷ハイキングと川遊

び。いつも強がっている幼稚園児の龍太ですがズボンが濡れただけでしばらく大泣き、でもすぐに慣れていつもの笑顔で楽しく水遊び！

4日目は山登り。小学校の登下校さえまだ覚束なかった1年生の正宗が、足元を取られた岩崎の手を引いて「ファイト一発」助けま。そして小1の時から毎年のように参加してきた高校生の親太は、疲れて歩けなくなった亜紀をおんぶして下山。皆なんと頼もしいことでしょう！

5日目は最終日、新幹線で帰る亜紀と奥寺を先に駅まで送り、残りのメンバーは車でまた長いドライブです。しかし帰りも渋滞はなく予定より早く夕方無事帰宅することが出来ました。

子どもたちには忘れられない思い出として心に残る楽しい時間になったことと思います。
(小西 剛史)

高校受験に向けて 佐藤家

佐藤家には、高校受験を控える中学生が2人います。2人とも教科学習の基礎が固まっておらず、

学校からの宿題も自力では難しいのが現状です。

どうやって彼らをサポートしていけばいいか、学習の質と量を確保するために何ができるか。夏休みを前に頭を悩ませました。

スタディサプリ(学習塾講師の授業動画を配信するサービス)を利用して、平日は一日一科目一講義を目標に視聴させることにしました。その成果がテストの結果として現れるのはまだ先になりそうです。しかし、「勉強をやりたくない」「わからないからやらない」と逃げ出すことなく、まずは受験勉強と向き合えたことが収穫だったと思っています。

高校入試まであと半年。その間に、学校説明会への参加、学習の追い込みなど、多くのハードルがあります。夏休みを乗り切った経験を活かし、受験という荒波を越えていってほしいと思います。
(新吉屋 健太)

留学生に教わる 原田家

今年もカリフォルニア大からの研修生が、はるばる光の子どもの家にやってきてくれました。今年

は女性2人でした。

そのうちの1人、ステッフが原田家に入りました。ステッフはベジタリアンで、肉も魚も食べられませんでした。食事は別メニューをつくるなどしながら、2ヶ月以上一緒にくらしできました。

ステッフはよく気がつく子で、休みの日に出かけるとおみやげを買ってきてくれたり、鉛筆けずりが壊れていたからと買ってきてくれたり、ゴミ箱がいっぱいだと捨てに行ってくれたり、小さい子といっぱい遊んでくれたり、「沢山手伝いたい！」と状況をみて、自分で考え、行動してくれました。

研修最終日には、子どもにも大人にもひとりひとりに日本語の手紙を書いてくれたのです。そういう子はいるようでなかなかいないし、教えてできるものでもないと思います。

研修期間が終わって一度帰国した後、またすぐに会いにきてくれました。そのときもみんなにおみやげを買ってきてくれました。9月からは1年間日本の大学に通うようです。今後も沢山会いに来てくれるそうです。

私も沢山教わりました。

子どもたちにもそういうふう
育ってほしいなと思ったできごと
でした。

(岩瀬 志穂)

おいしく楽しい食卓を 倉澤家

10月で光の子どもの家に入職し
て1年になります。普段は厨房で
職員や子どもたちの食事をつくる
裏方のような存在です。厨房では
大先輩のおねえ様方にいろいろ教
わりながら楽しくやっています。

最近では、倉澤が休みの日に倉
澤家のフォローに入ることがあり
ます。一人で夕食の準備をしてい
る間は静かですが、子どもたちが
帰ってくる和家人がにぎやかにな
り、楽しい気持ちになります。

中学生の良子は塾に通い始め、
みんなと同じ時間には夕食を食べ
られません。そんな良子が塾に行
く前、腹が減っては戦ができぬと
おにぎりを作ってあげたらすこ
喜んでくれました。

子どもたちの笑顔を見られるよ
う、これからもおいしい食事をつ
くっていききたいです。

(関根 裕介)

出発の前 牧野家

高3の真由子は卒園まであと半
年。先日、希望する企業の就職試

験があった。

年度初めに「進路希望調査用
紙」が担任から配られた。不安、
緊張、怖さなど、さまざまな感情
に気づかないふりをするために、
向き合うことから逃げるかのよう
に、生活が乱れていった。高校を
卒業したら就職して自立する。自
分で決めたことであっても、その
進路に向き合うことはとても難し
いことだと思う。

試験前日、スマホ片手に「明日
会場までどうやって行けばいい
の？」と私に聞く真由子は、緊張
からハイテンションだった。

当日の朝、真由子は全身を緊張
で硬くして、「行ってらっしゃい」
に「行ってきます」と応じる余裕
もなく、能面のような顔で出かけ
て行った。昼過ぎ、「無事試験終
わったよ」とラインが届いた。

翌日、採用通知が届いた。半年
後ここから出て一人暮らしを始め
ることが決定した瞬間でもあっ
た。

私が何気なく「早朝勤務もある
んだよね、冬は寒そうだね」と声
を掛けると、「もう!!何でそうい
うこと言うの!!」そうやってまゆ
を脅かすの!!と敏感に反応する
真由子。その姿を見て、進路が決
まった安心感と同時に、新生活へ
の不安と緊張が真由子を襲ってい

るのを感じた。

少しでも自信をもって卒園でき
るように、ここで過ごす生活の中
で私たちには何ができるのだろ
うか、何を伝えられるだろうか、改
めて考えている。

(牧野 由紀子)

羊子じいじのこと

光の子どもの家は、多くの地域
の方からご支援をいただしていま
す。日頃のご支援の感謝を込め
て、「羊子じいじ」こと、栃野さ
ん(仮名)のことをお話させてい
ただきたいと思えます。

栃野さんが「羊子じいじ」と呼
ばれるようになるきっかけは3年
前のこと。ボランティアさんによ
る園庭の除草奉仕作業でした。当
時2歳で光の子どもの家にやって
きたばかりの羊子が、除草に來ら
れた方の休憩の輪にすつと入って
いき、栃野さんの側でおやつを食
べ始めたのです。

季節が冬に向かうころ、栃野さ
んが羊子によく似合う、白いうさ
ぎさんのコートをプレゼントして
くださいました。それ以来、羊子
の姉兄のことまで気にかけてくだ
さり、季節の変わり目ごとにタオ
ルケットや肌掛け、洋服、お菓子
などをいただくようになりまし
た。どれも栃野さんが折々に必要

なものを考えて用意してくださる
ものです。

たびたび、羊子と、羊子と同年
齢の菜々や亜紀をご自宅に招待し
ていただきました。栃野さんのお
宅の庭には、栃野さんのお孫さん
のために用意された遊び道具や、
手作りで設置された遊具や砂場が
あります。畑で芋掘りや野菜の収
穫も体験させてくださいました。

しかも、私たちが気兼ねなく遊
べるようにと、お招きいただくと
きは栃野さんのお孫さんは別の
ところにお出かけするようにして
くださるのです。

先日、私たちからの御礼として
季節の果物をお持ちしましたが、
ご辞退されました。私たちの気持
ちだけでもお受けいただきたく、
本園で作った梅干しと、羊子・
菜々・亜紀が描いた絵を添えて、
お手紙をお渡ししました。

たいへん大きなご支援に感謝を
言い尽くすことはできません。い
つも子どもたちへのお心遣い、あ
りがとうございます。

(佐俣 浩代)



子どもの自立

理事長 菅原 哲男

児童養護施設を出た後の子どもたちについて問われることがある。

一様な子どものあり方やそれへの関わりなどはない。しかし、児童養護施設利用者に特有なあり方があるだろうと思うが、即答できない一様な様態などはない。

人は母親になる者の胎内で受精したときからのあらゆる活動は自立を目指している。

1997年の児童福祉法の改正で児童養護施設の目的の児童の保護・監護に自立を加えた。以来、法の改正や行政の整備が続いている。

児童養護施設を出てからも自立への試行錯誤や模索は連続する。

自立とは、カントによれば、自分の理性によって立てた道徳法則に自発的に従うことを、「自律」と呼んでいる。(岩波文庫「実践理性批判」)

イギリスの小児・精神医のウイニコットは、母の妊娠後期から数ヶ月にわたり原初的母性的没頭と言われる状態に母子は置かれるという。これは母親の母性的な心的状態を指す。この時母親は乳児に

心を奪われ、引きこもりと思われ、ほど外界に注意を払わなくなるが、これは適応的で健全な状態であり、乳児の発達には不可欠なものであるという。

児童養護施設利用者の中にこのような「没頭」を経験できた者は少ないし、あっても少ないだろう。しかし自立には必至のそれである。何とか代替する方がないのかと考えてきた。

また、乳幼児期に安心して眠ることで成長ホルモンが大いに分泌されて、骨や筋肉などを増強して自立へと動員される。妊娠から青年前期までの子どもたちは存在そのものが自立へと向かっているのである。

30名足らずの職員が36名の子どもたちに関わる光の子どもの家ではそれぞれの職員が自立に向けて子どもたちに関わっている。それは、毎年度議論される自立支援計画などの作成などによって明らかである。しかし、自立についてこのように考えるという具体的目標像についての吟味はあまりなされてきていない。このことは、ある者は自立とは真四角であると考

え、ある者は温かいもの、またある者は軽いものであると考えていたとしても議論は成り立つ。

これらを統合して自立とは、真四角で温かく軽いものであるという程度の具体像を互いに確認して議論を進めるべきだろう。

この子どもの自立とは何か、子どものどういう状態が自立であるのかを、少なくともそれに当たるはたらきに関わる者たちは確認すべきだ。

先頃、光の子どもの家に行事があり、遠藤保育士とそのグループと隣合った。遠藤にしがみついている幼女は、泣いてやつと収まりかけた状態に見えた。どうしたのかを問うと、幼女は、遠藤保育士の隣の席に座りたかったが、他の子がその席を占めてしまったと泣いたという。ほとんど恋人同士のような関係に特に幼児と保育士はなることが多い。これは、通常の幼児と母親との間にできる原初的母性的没頭のような状態と通底していると考ええる。

徹郎は、高校に入学しお祝いされてスタートしたが、半年もしいうちに辞めたいと言いつつ、ユーチューバーになりたいという。生活リズムがほかの子とも違うので、職員宿舎を利用して住んでもらっている。日常的に職員が行き来するわけでもない中で、

徹郎は特別扱いに慣れてしまっていた。だから自立へ向けて努力などできる状態にない。

小西指導員などがかなりのエネルギーを使って話し込み、提案などしてきているが、動かない状況が続いている。何が内向きにしているのかは、 Δ の設備があり、三食が保証されている状態から動き出し、自立へと向き合うためには、それ相当のエネルギーを貯めて向き合わなければならぬ。

しばらく動き出すまで祈りながら待たなければならぬだろう。映画「隣る人」の宣伝ビラや本の帯に書いてきた「誰もひとりでは生きられない」は正解だろう。

自立のイメージは、いつでも話ができ、依存可能な人が側にいることが必須である。話をするというよりはそばにいたいと願う存在である。

生まれてからここにやってくるまで一度も親から愛された経験のなかった毅は、小児科医や児相の介入でやってきた。入院時は体重や身長がそれ相当地に増加した。退院するとそれが止まるという現象を繰り返していた。安心して眠るという条件が確保されると成長することが確認された例である。寝る子は育つと言うが、安心という条件が必至なのだ。

○自立とは、依存の完成形である。

現場から

この夏の思い出

遠藤 恵里香

風の中にも秋の気配を感じる季節となりました。今年の夏は記録的な猛暑日が続きましたが、子どもたちはそんな猛暑にも負けず、夏休みを満喫していたように思います。

光の子どもの家では毎年、小学校低学年／高学年に分かれ、山登りやハイキングを実施しています。今年度、私は高学年のハイキングに引率メンバーとして参加しました。

場所は千葉県の銚子市。埼玉県在住の私たちにとってなじみのない、海沿いの街並みを堪能することができました。参加した子どもほとんどは、海に入ったことも間近で見たこともな

く、初めての海の波しぶきに大興奮でした。

初日は子どもたちのリクスエトで、犬岩見学と船に乗ってのイルカ見学ツアーを計画していました。

犬岩では、事前調べではわからなかった小さな洞窟を見つけました。皆恐れることなく洞窟の中をグングン進み、貝殻やサワガニを発見。興奮して、なかなか洞窟から出てきませんでした。

その後、浜辺の波打ち際へ移動すると、服が濡れることもお構いなしで、波が打ち寄せるたびに大はしゃぎで立ち向かっていきました。当然ズボンがびしょ

濡れです。予定の時間ぎりぎりまで遊び、ズボンを乾かす間もなくイルカ見学ツアーに向かいました。

30名ほど乗ることのできる船のデッキから、スナメリという種類のイルカを見ました。みな真剣にイルカを探し、飛び跳ねるイルカを見つけては、各々に「あつ、あそこに今いた！」と指さしていました。想像していた以上にたくさん群れを見ることができました。

しかし喜びもつかの間。乗船時間のほとんどは、慣れない船に酔ってしまい、ぐったりした様子で座り込んでいました……。この船酔いもまた、貴重な経験となったことでしょう(苦笑)。

2日目は、メインイベントの銚子ハイキング。この日、加須に近い熊谷市では日本最高気温を更新するほどの猛暑日でしたが、銚子はとても涼しく、絶好のハイキング日和でした。

普段は見ることの出来ない海沿いの風景と、道端に落ちているたくさん魚を見ながら、子どもたちは余裕の表情で歩き

続けました。途中、休憩ポイントの犬吠埼灯台で、子どもたちはなんと犬吠埼灯台を登ろうと言いはじめました。そして、全99

段の階段をスタスタと登り始めたのです。私も子どもたちに負けるまいという一心で灯台に登りました。

登り切って、灯台から見た景色はまさに絶景でした。景色を撮影した後、私は一瞬で我に返り、自分が高所恐怖症であることを思い出しました(苦笑)。

何とか灯台を下りた後は、疲労と恐怖で足がガタガタでした。子どもたちは疲労の色も見せず、ゴール地点にたどりつくと、皆活き活きした表情を浮かべていました。

この夏の経験を大人になっても覚えていてほしいなと思います。



寄付金受領感謝報告

2017年4月1日から2018年3月31日までに受領いたしました「社会福祉法人光の子どもの家を支える会」への寄付金について、感謝してご報告申し上げます。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りによって光の子どもの家のはたらきが支えられております。ご協力に心より感謝申し上げます。

尚、ご寄付をいただいたにもかかわらず、本欄にお名前がない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがご連絡下さい。次号(「光の子188号」)にて訂正致します。

2017年度募金総額 5,222,591円

大遠榎榎梅 宇都宮ホーリネス ヴォーリス学園 岩村 岩田 岩浦 今関 今泉 伊藤 石津 穴水 安達 朝日 朝霞 浅海 青山キリスト教学生会 青山キリスト教会 青山学院高等部 青山学院中等部 青山学院初等部 青山学院幼稚園 青山学院幼稚園 青戸教会子ども礼拝会 青木正洋子 相崎洋子

木村富雄 木村澄子 北本教会北本教会学校 菊池章子 関東学院 関東学院小学校 関西学院宗教活動委員会 川浪恵美 河野良子 河野今井昇 株式会社テイ・エスロジステイツク 加藤晶子 加世田育子 柏ひがし幼稚園 (学)ワタナベ学園 学校法人横浜英和学院 理事長 寺嶋潔 学校法人女学院 角尾和子 柿崎江美子 小山聖泉キリスト教会 音喜多博英 小川洋一郎 岡部恭子 岡崎晃 大浜真理子 大野孝二 大月芳江子 大館誠子 大川誠子

女野学 醬野良子 庄司洋子 頌栄女子学院 清水正夫 渋井みさ子 繁永芳巳 志賀慶治 シオン幼稚園 狭山シャローム教会学校 佐藤由香 佐藤協子 坂本博 相模原福音 坂戸キリスト教会 櫻井孝一 齋藤知弘 齋藤俊一 斉藤重夫 斉藤久美子 笹村元康 佐々木英紀 駒澤教会教会学区 小林恵子 五瀬伸治 小池健治 桑川美和 櫛田真澄 暁星小学校 シャミナード会

白岡伝道所 白石和子 白濱綾子 白百合学園小学校 鈴木木偉夫 聖学院みどり幼稚園 聖学院小学校 PTA宗教部 聖学院中学高等学校 聖学院大学 聖学院大学内聖学院 聖学院教会教会学校 関根淳子 世田谷中央教会 捜真女学校 大和友子 滝口俊子 竹村秀樹 玉川聖学院 土野温之 道灌山学園 保育福祉専門学校 東京三育小学校 東洋英和女学院小学部 東洋英和女学院 中高部宗教委員会 東洋英和女学院 小学部母の会 東洋英和女学院 中学部高等部母の会

東洋英和女学院中高部
 図書活動委員会
 東洋英和女学院同窓会
 富岡 深恵子
 豊里 靖子
 鳥越 宏子
 内藤 芳江
 苗村 ゆう子
 中澤 雅弘
 中村 久美子
 中村 好誼
 中村 佐智子
 名古屋柳城短期大学
 付属豊田幼稚園
 成瀬 光一
 西新井教会保育園
 西貝 京子
 西千葉 教会
 西野 友章
 西山 守
 日本基督教団安行教会
 日本基督教団曙教会
 日本基督教団岩槻教会
 日本基督教団荻窪教会
 日本基督教団掛川教会
 日本基督教団
 鎌ヶ谷教会
 日本基督教団
 鎌倉恩寵教会
 日本基督教団
 京葉中部教会
 日本基督教団信州教会

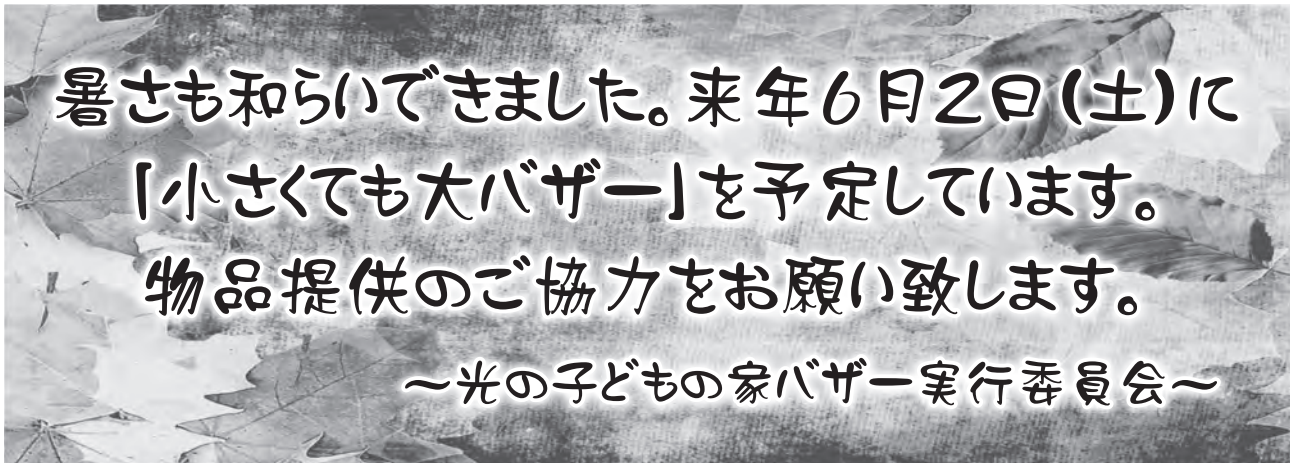
日本基督教団
 田園調布教会
 日本基督教団長生教会
 日本基督教団
 花小金井教会
 日本基督教団
 東村山教会
 日本基督教団
 ひばりが丘教会
 日本基督教団水元教会
 日本基督教団
 元住吉教会
 日本基督教団
 四街道教会教会学校
 日本キリスト教会
 浦和教会
 日本キリスト教会
 金沢元町教会学校
 日本キリスト教会
 鎌ヶ谷教会
 日本キリスト教会
 埼玉大通り教会
 日本キリスト教会
 埼玉和光教会
 日本キリスト教会
 佐渡教会
 日本キリスト教会
 仙台川平教会
 日本キリスト教会
 西川口教会
 日本キリスト教会
 松沢教会

日本キリスト教会
 松本筑摩野伝道所
 日本キリスト教会
 三島教会
 日本キリスト教会
 守谷教会
 日本キリスト教会
 葉園台教会
 日本キリスト教会
 横浜海岸教会
 新山 正子
 根岸 有美子
 服部 道子
 早川 治子
 原田 都治
 檜垣 孝江
 日ノ本学園高等学校
 宗教委員会
 野津 信子
 弘前学院聖愛
 中学高等学校宗教部
 広島女学院
 ゲーンズ幼稚園
 広島女学院
 中学高等学校
 フェリス女学院
 大学奨学金
 フェリス女学院
 理事長 奥田 義孝
 福島 明美
 藤原 礼子
 古林 千恵子
 古森 美沙

普連土学園宗教委員会
 平成女学院
 中高宗教センター
 北陸学院
 中学校高等学校
 保坂 陽子
 堀田 哲一郎
 本田 徹
 前田 岳人
 松代 敦子
 松野 敦子
 三鷹小鳩幼稚園
 宮澤 泰子
 宮野 恵子
 宮原 康子
 宮本眼科 宮本正
 武蔵野台キリスト教会
 村越 晴美
 明治学院高等学校
 もぎ ゆみこ
 森 節子
 谷澤 紀美子
 矢崎 正一郎
 安田 深江
 柳下 明子
 吹正 道子
 矢内 喜雄
 山極 外修
 山崎 文枝
 山崎 龍一
 山田 智
 山田 裕太

☆光の子どもの家をお支えいただき、
 心より感謝申し上げます。
 光の子どもの家を支える会
 社会福祉法人 光の子どもの家
 代表 永野 三恵
 理事長 菅原 哲男

山本 俊樹
 吉田 員子
 吉野 久美子
 吉見 昭徳
 ラ・サール学園
 ロゼオファクトリー
 桜井 康二
 和戸 教会
 (敬称略)



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2018年5月～6月

- 2018年6月現在
 幼児5名 小学生10名 中学生9名 高校生8名 他2名 計34名
- 5月
 2日 温泉同好会
 4日 子ども祭り開催 子どもたちが企画実行し、お客様を招待
 9日 民生児童委員・赤十字奉仕団役員会&後援会による昼食会
 11日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
 13日 各家で母の日夕食会
 15日 藤岡孝志氏による職員施設内研修 感謝
 18日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
 5月生まれの誕生会
 25日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝
 24日 第117回理事会、第2回評議員会、その後皆で夕食会
 27日 東洋英和女学院より実習生
 31日 通報避難訓練
- 6月
 1日 後援会によるうどん玉作り 感謝
 2日 「小さくても大バザー」開催 ご協力して下さった皆様に感謝
 ポレポレ東中野でドキュメンタリー映画「隣る人」再上映
 7日 阿佐ヶ谷民生児童委員来訪見学
 8日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
 10日 温泉同好会

- 11日 東京家政大学より実習生
 さいたま子どものこころクリニックの星野崇啓氏による職員施設内研修 感謝
 15日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
 22日 カルフォルニア大学より2名の研修生
 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝
 6月生まれの誕生会
- <寄贈者各位> 泰子 木田智恵子 光の子どもの家後援会
 櫻井秀夫 鴨川会 古川景子 根岸亜麗朱 関根淳子
 松本千代子 (株)マザーズ ハムコ会 松本シゲ子
 小泉三知子 関根由紀 柿沼ルツ 榎谷みどり
 しずくの会 マルキチ物産 長田美紗子 内藤芳江
 下川真由美 伊藤富子 横村スミ子 福楽 野口ひろみ
 新井摂子 宮崎晴子 松本静江 小関桂子 小山田貴子
 小山 斉藤千恵子 渋谷みさ子 鳥越宏子 金子光代
 豊国道江 豊田農園 山口榮子 小林幸子 浜田文昭
 金久保公男 木暮伸二 垣内ルツ 他多数の皆様

- <ボランティア各位> 山田智 山田裕子 櫻井秀夫
 セカンドハーベストジャパン 木田浩靖 木田智恵子
 向井進 常松洋介 山田義人 岡本有代 加藤瑞海
 芹沢美保 他多数の皆様
- これから寒くなります。皆様お体崩さずにお過ごしください☆(黒川)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

本号はプリズムに新顔が2名▼関根は栄養士として施設全体の食生活に目を配りつつ、倉澤不在時の倉澤家の食事づくりを担ったり、牧野家の子どもとお出かけをしたりと、職種の枠を越えて大活躍。子どもには「せきねっち」と親しまれ、女子には「かわいい!」と大人気▼佐俣は、光の子どもの家設立当初からの職員だった「おばちゃん」こと鎌田洋子の実娘。2代目おばちゃんとして園内保育に、調理に、裁縫手芸にとフル回転です▼光の子どもの家は責任担当を採りますが、個々の子どもについての責任を担当者だけに持たせてはいません。家(ユニット)や職種を越えて、協力しながら多様なかわりを積み重ねていきます▼さらに地域で支援して下さる方、ボランティアや寄付・寄贈をくださる方、他施設・学校から研修で来られる方、カリフォルニア大学からの留学生と、多くの方に支えられて今があります。本号がその一端をお伝えするものになっていれば幸いです。(義)